

## インターハイを終えて

体操競技団体優勝  
船橋市立船橋高等学校  
村山 覚人



今回、インターハイという大きな大会で団体総合優勝という大きな結果を残すことができ、大変嬉しく思います。

昨年のインターハイでは団体優勝を狙えるメンバーで決勝に挑み、接戦の末準優勝という結果に終わり、とても悔しい思いをしました。私は、準優勝が決まった瞬間から来年は必ず優勝すると心に決めました。それからの1年間、その悔しさを晴らせるよう自身の強みとなる種目の強化や1つ1つの技の完成度を上げる練習に加え、団体メンバーの技の向上にも力を注ぎました。そして今回、団体総合優勝できたことは私にとって大きな自信となりました。しかし、このような結果を残せたのは決して私一人の力ではないと感じています。日々、熱心に指導してくださる先生方や、切磋琢磨してきたライバルたち、大会を運営し支えてくださっている方々、毎日の食事の管理や生活をサポートしてくれている家族など多くの方のおかげだと改めて実感することができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

高校卒業後は大学で競技を続けていきますが私は他の選手と比較するとDスコアがまだまだ低く今後の課題になります。今回の結果に満足することなく、課題をしっかりと見つめ、オリンピックで金メダルを獲得するという目標に向かって邁進していきます。そして、今まで支えてくださった方々に結果という形で恩返しができるよう丁寧に美しく人に感動を与えられるような体操を目指し精進していきたいと思えます。

本当にありがとうございました。

## 日本一の瞬間

体操競技団体優勝  
東京学館高等学校  
吉村 萌恵美



私たち東京学館高等学校体操部は、昨年の全国高校総体で団体初優勝し、今年も団体優勝を成し遂げることができました。

今年は昨年と違う新しいメンバーの中、自分が最上級生としてチームを引っばっていく役目になりました。練習では、みんなが優勝するという思いで一日一日を大切に、力を合わせて一生懸命になり、上手いかない時は支え合ってチームみんなでスキルアップを目指して練習に励みました。

迎えた試合当日、予選ではチームのミスが続き予選2位通過となりましたが、焦ることなくむしろ逆転優勝に向けて絶対に勝つ！という気持ちをもって決勝に向かいました。

決勝当日。段違い平行棒からのスタートで予選よりもチーム全体が盛り上がっていて、「チームの誰かが失敗したら他の人がその失敗を補って」と支え合いながら良い雰囲気最後まで試合することができ、演技自体も良く、予選よりも4点ほど点数を上げて優勝することができました。

ここまで来られたのも、私たちの力だけでなく、毎日指導してくださった先生方や、サポートしてくれている家族、応援してくださる方々のおかげです。表彰台の1番上は、嬉しい気持ちと特別な気持ちを教えてくれて、もっと強くなってこの思いをたくさん感じたいと強く思いました。

最後のインターハイを良い形で終えることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。下級生のメンバーたちはまた来年もあります。この優勝を勝ち取る喜びを来年も繋げてほしいと思えます。本当に応援ありがとうございました。

## 全国制覇に向けて己に勝つ

新体操団体優勝  
昭学院高等学校  
梶井 優



私たち新体操部は、8月に行われた全国高等学校総合体育大会で団体優勝することができました。今年目標は『全国制覇』です。その目標を達成するために、チーム内で自分達が思っていることを言い合い、常に高い目標を持ち、共有することで団結力を高めてきました。一度しかない本番のために何事にも自分達を信じて日々練習してきました。今年の曲は『ノートルダムの鐘』です。この曲を表現するためにチーム全員で劇団四季のミュージカル、ノートルダムの鐘を観に行きました。自分達と演じている形態は違っていても、音の捉え方や身体の表現の仕方、役になりきる大切さを学びました。劇団四季を観に行ったことによって物語が想像しやすくなり、表現や動きの大きさなど、演技をレベルアップさせることができました。

また、私たちの目標は観ている人たちに感動を与えることでした。このチームになってから沢山の試合を重ねてきたことを強みに、インターハイでは、いつも通りの自分を信じ、目標としていた演技をすることができました。何よりも私たちの演技を観て、沢山の皆さんが『感動した』という言葉をかけてくれたことが、今まで色々なことを乗り越えてきて良かったと感じた瞬間でした。

ここまでくるのに『己に勝つ』という強い気持ちを持ち、本番で自分達が納得のいく演技をするために日々努力してきました。チーム内で何度もぶつかり合い、話し合うことも沢山ありましたが、全員で諦めず頑張ってきたからこそ、このような結果を得ることができたのだと思います。選手として出場できるのは5人ですが、私たち新体操部は部員全員で戦いました。先生方やチームの仲間、沢山の皆さんの応援、一つかけてもこの目標は達成できなかったと思います。そして、いつも側にいて支えてくれた仲間が存在はとても大きかったです。高校生活は大変早く、とても充実した日々を過ごすことができました。素敵な仲間や先生方、支えてくださった沢山の皆さんに感謝しています。本当にありがとうございました。

## 念願の3連覇

レスリング団体優勝  
日本体育大学柏高等学校  
竹下 雄登



8月1日、2日と三重県で開催された全国高校総体レスリング競技学校対抗戦の部において私たち日本体育大学柏高等学校が優勝し、3連覇を達成することができました。しかし、優勝という2文字を達成するまでに多くの試練や苦悩がありました。日本体育大学柏高等学校レスリング部は創部4年とまだまだ新しいチームで、中学時代から全国大会の上位に入賞する選手が多く、周りの人たちからは勝って当たり前と言われていました。ですが強い選手が多くそろっている分、一人一人の個性が強くキャプテンとしてチームを一つにまとめるということがすごく大変でした。

そして迎えた全国高校総体本番。初日に3回戦までが行われました。私たちのチームは実力を発揮し、快勝しました。しかし、移動のバスの車内でチームのみんながすでに優勝したかのように気が緩んでいると感じました。私はその状況に危機感を感じ、全体のミーティングが終わった後にみんなを集め、「俺たちはまだなんにも成し遂げていない。もう一度気を引き締めなおして、明日の試合に臨もう」と伝えました。すると、チームみんなの顔色が変わり、緊張感のある顔つきに戻ったので安心しました。

二日目の準決勝では、昨年優勝を争った埼玉県の花咲徳栄高校と対戦しました。試合前、私はキャプテンとしての責任感や勝たなくてはならないという使命感などいろいろなことを考えてしまい、体が動かなくなってしまいました。キャプテンである私自身が負けてしまい、チームに迷惑をかけてしまいました。しかし、私が負けた後みんなが勝ってくれてチームは勝つことができました。そして決勝戦では東京都の自由ヶ丘学園高校と対戦しました。51kg級は負けてしまい、ここで私が負けるわけにはいかないという気合を入れなおして試合に臨み勝つことができました。続く2試合を負けてしまい、あと一人負けるとチームが負ける状況まで追い込まれましたが、最後の3人が勝つことができ、4-3で3連覇を達成することができました。

今回のインターハイでは誰かがミスをしたら他の人がカバーをすることができ、チームみんなの執念が勝ち取った3連覇だと私は思いました。

優勝を達成することができたのはたくさんの人の支えがあったからだと思っています。本当にありがとうございました。

## 全員でつかんだ勝利

テニス団体優勝  
秀明大学学校教師学部附属  
秀明八千代高等学校  
鈴木 陸翔



私達は三重県四日市市で開催された東海総体において、テニス男子団体の部で優勝することができました。昨年度の南東北総体では決勝まで勝ち進んだものの、結果は準優勝だったので、この1年間は「来年こそは必ず優勝する」という強い気持ちで各々練習に励んできました。

初戦から激しい試合が続き、3回戦では第1シードの地元四日市市の学校との対戦となりました。地元ということもあり応援がとても多く、完全にアウェイの状況でしたが、試合前キャプテンを中心に「チャレンジャーという気持ちを持って常に戦い続けよう。周りは気にせず自分達のペースでいこう。」とメンバー全員で話し合い、その結果チームは勝利を収めることができました。

このチームの強みは、メンバーの仲が良く、常にコミュニケーションを取っていて互いに何でも言い合えるといった、団体戦にとってとても大切なことが自然にできている所だと思います。それが個々の力を最大限に発揮することに繋がりました。

今回の優勝は、自分たちだけでなく、顧問の先生方や保護者、部員のみんな、全員でつかみとった勝利だと思います。表彰台に立った時、これまで支えてくださった方々の顔を思い浮かべ、今までに味わったことのない大きな喜びを感じました。本当にありがとうございました。

## 夢の三連覇

少林寺拳法団体演武優勝  
桜林高等学校  
松田 大毅



私は全国高校総体少林寺拳法競技男子団体演武において、一昨年、昨年に続き優勝を果たし、三連覇を成し遂げることができました。優勝することができたのは、団体演武のメンバー全員が常に日本一の演武を意識した練習をし、強い団結力を持って大会に挑戦することができたからだと思います。

私は一年生の頃から団体演武のメンバーに選んでいただいていた。一、二年生の頃は先輩方についていくことに必死でした。しかし、今回は今まで先輩方から学んだことや自分自身で養ってきたことを活かして、自分が引っ張っていく番だと強い気持ちがありました。主将としてチームをまとめるために心掛けていたことが二つあります。一つ目は理解するまで伝えること、二つ目は常に目標を持って練習に取り組むことです。限られた時間の中で内容を理解せず、ただ練習をするだけでは時間や体力の無駄であると考えました。また目標を明確にすることによって、集中力を高めることができ、質の高い練習をすることができました。

大会当日は、緊張せずに挑むことができました。それは今まで練習の中で絶対的な自信をつけることができたからです。仲間を信じて全力で自分たちの演武をすれば、必ず優勝できると確信していました。二位と6点差をつけ優勝することができ、桜林高校の団結力をしっかりと表現することができたと思います。最後の全国高校総体で最高の演武ができたことはご指導してくださった監督の土屋先生をはじめ、たくさん先生方や先輩方、そして自分たちを支えてくれた家族のおかげだと思います。本当に感謝しています。これからも「感謝」という言葉を忘れずに頑張っていきたいと思っています。

## インターハイカヌースプリント女子総合優勝

カヌー学校対抗優勝  
千葉県立小見川高等学校  
諏訪 智美



今回の2018 彩る感動 東海総体カヌー競技で女子総合優勝をすることができました。私たちは現在2年生で、2度目のインターハイでした。昨年、初めて臨んだインターハイでは高校の壁の厚さを知ることになりました。来年こそはこの壁の向こうへ食い込み、誰よりも速くなるという気持ちで日々練習に取り組んできました。そして体力、筋量、技術、精神面など、すべての要素でレベルアップし、岐阜県に向かいました。

今年の決勝のレースでは、メンバー全員で勝ちに行く気持ちをそろえることができ、今できる自分たちの最高のレースをすることができました。カヌー競技は一人乗りのシングル、二人乗りのペア、四人乗りのフォアに分かれており、私たちはそのすべての種目で決勝に残りましたが、残念ながら出場した種目で優勝することはできませんでした。しかし、すべての種目を合わせたポイントで女子総合優勝をすることができました。本当に結果が残せて良かったです。そして優勝したものの、まだ上を目指すことができるというのは本当に幸せなことだと思います。この気持ちを胸にこれからの練習に励みます。

私たちは来年3年生です。来年は最後のインターハイになるので、圧倒的な力をつけて全種目優勝、総合優勝2連覇を果たしたいと思っています。またたくさんの応援や、支援のおかげがあったことで今回のような結果を得ることができたと思います。そのことに感謝し、これからも日々精進していきたいです。引き続き、皆様どうぞよろしくお願いたします。